一　次の各問いに答えなさい。

問一　次の各文の――線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

1　実力をハッキする。
2　限られたシゲン。
3　マンチョウの時間を調べる。
4　プレゼントにカンゲキする。
5　ロボットを操作する。
6　派生した問題。
7　キャンプの装備を整える。
8　ポートライナーの運賃を調べる。

問二　次の（　　）の読みをそれぞれ漢字で答えなさい。

1　計画を実行に（　ウツ　）す。
2　スクリーンに映像を（　ウツ　）す。
3　（　ヤサ　）しい問題から解く。
4　いつもより（　ヤサ　）しい先生。
5　（　シンコク　）な表情。
6　市役所に（　シンコク　）する。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。設問にあたって本文の一部を改変した。

ゴリラって何を食べてるの？

ある秋の日、上野動物園にいるゴリラたちの一日のメニューを覗いてみた。ゴリラは8頭、うち、オスは2頭、メスが4頭、子どもが2頭分の献立である。A食事に出る野菜は、決して残り物や賞味期限切れのものではない。人間が食べるのと同じものだ。

①イガイなことにバナナはほんの少し、リンゴに至っては0。［　Ⅰ　］、レタスの量は1頭あたり2キロ、トマトも1・5キロ、大根は1／2本、枝葉は4キロ！　野菜と枝葉が中心であることから、繊維質の食材がほとんどだ。

ゴリラは、大きな大腸や盲腸を持っていて、そこに微生物フローラ（体内の消化管に生育する微生物の総称）が住んでいる。そのおかげで、木の皮や植物のセルロースやヘミセルロースから栄養を得ることができる。逆に、糖や脂質が多い食物を摂取すると、この微生物フローラにダメージを与え、潰瘍性大腸炎、血管性疾患、コレステロールレベルの上昇といった病気を引き起こし、死に至ることもある。人間が食べるために栽培されたリンゴは糖度が高い。バナナも言わずもがな、［　Ⅱ　］、全体の量から見るとほんの少量なのだ。

そんなゴリラたちにとって、Bとても重要な食物が「枝葉」である。要するに木の枝と葉のことだ。一日の総重量たるや、野菜や果物の何倍にもあたる。枝葉にはたくさんの種類があり、主に食べられているのは、ネズミモチやシラカシ、ケヤキ、スダジイなど。［　Ⅲ　］、動物園内で剪定された新鮮な枝葉も利用されることがある。

枝葉は食べるだけでなく、他にも活用法がある。赤ちゃんは、自由に動き回れるようになると、枝葉を引きずって［　Ⅳ　］力試しするように遊ぶ。ゴリラのメス、モモコは集めてきた枝葉の真ん中にどっかりと座り、手の届く範囲に枝を集めて、葉を取っては食べ、枝だけになったものをまた丁寧に戻す。

こういった自分の周りに草や枝、藁などを集めてくる行動は、ネスティング（巣作り行動）の一種と言われている。本来ネスティングとは、寝るときに、周りの枝葉を集めて自分用の一夜限りのベッドをつくるという野生でよく見られる行動だが、動物園ではこのように、自分の周りに円を描くように、好みの植物を地面に置くことがある。

ゴリラの食事とその流儀

食事の始まりと終わりは、ゴリラが自分の意志で決める。あらかじめ用意された餌の中から何をどの順番で食べるのかもゴリラ自身が決めているのだ。

野生では、とにかく食べ物を探して移動し、見つければそこで食べ、休み、時には遊び、そして移動を繰り返す。ゴリラにとって重要なのは、

C

ということだ。

さて、上野動物園のゴリラたちは午後2時少し前になると、みんな一度②キュウソクのために部屋に集まってくるので、展示場はカラになる。そこで、今度はキーパーたちが展示場で食材をセットして回る。カットされた野菜は、葉の上やくりぬかれた丸太の中や、地面にこんもりと敷かれた麦藁の上、擬木にぶら下がっている箱の中と、③手際よく配置されていく。

やがて、ゴリラたちが展示場に戻ってきた。オスのゴリラ、ハオコはトマトに目がない。大きめな葉のうえに、四つ切りにされたトマトがのっている。じっと見つめ、鼻を近づけてにおいをかぎ、「いま、ここにあるものは何だ?」とD慎重だ。つまんで、手触りを確認する（「食べ物である」と認識すると、手で口に運ぶ、あるいは口を近づけて直接食べる。時には一度口に入れてみて、出し、もう一度口に入れることもある）。そして、大きな手のひらと太い指をE大きたいへん慎ましやかに使って、決してトマトをつぶしてしまわないように、注意深く口に運ぶ。ひとつずつつまむのではなく、口に入る分、3つか4つまとめて上手にそっと「つかむ」。ほおばると汁を飛ばすことなく、ほんのふた噛みくらいで飲み込む。

「口」は心の窓

ゴリラの「口の表情」はバラエティに④富む。口の閉じ方、開き方にバリエーションがあり、斜めにちょっと開いたり、歯を見せたり、尖らせたりとさまざまだ。類人猿は人間に比べて鼻の下がとても長く、皺が伸びることによって口全体の面積が広がる。

明らかに休憩モードのときは、下唇が歯茎が見えるほど、だらんと垂れてしまっていることもあるので、口を閉じているときはそれなりに緊張しているのだろう。また、「一番おいしいのはどれだろう?」と言わんばかりに、目の前の食べ物を値踏みするときは、たいがい口の周りに縦皺が寄って、明らかに「すぼめている状態」になる。枝からどの葉をちぎろうかと思案しているときも、やや口を尖らせて、とても集中して

いるようだ。

緊張しているときは口を真一文字に結ぶ。皺はたちどころになくなって力が入っていることがよくわかる。口を直接小枝や葉に近づけて、歯で刈り取るときは、斜めに少し口が開いて、一瞬だけれど口の中の赤さが目立つ（口の中は人間と同じで舌も赤い）。人間の子どもが笑うのと同じように口を少し開けたり、遊びに誘うときはちょっと口先を尖らせてくるくる回ってみたりと、口だけに注目して観察するのもおもしろい。

（並木美砂子『どうぶつたちの給食時間』）

問一　═══線部①～④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二　空欄 Ⅰ ～ Ⅳ にあてはまる語句として適切なものを次のア～オから選んで記号で答えなさい。

ア　ときには　　イ　なので　　ウ　ところが　　エ　ただし　　オ　まるで

問三　――線部A「食事」とありますが、ゴリラの食事について、本文の内容として正しいものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア　バナナとリンゴを中心に食べている。
イ　肉や魚などの動物性食品を中心に食べている。
ウ　野菜と枝葉を中心に食べている。
エ　人間の食べ残した果物を中心に食べている。

問四　――線部B「とても重要な食物が『枝葉』である」とありますが、ゴリラにとって枝葉が重要なものである理由について説明したものとして**適切でないもの**を次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア　木の皮や植物のセルロースやヘミセルロースから栄養を得ることができるから。
イ　ゴリラの赤ちゃんが枝葉を引きずり回して、遊び道具として使うことができるから。
ウ　自分の周りに好きな枝葉を置き、ネスティングのような行動をするときに利用されるから。
エ　動物園内で剪定されたとても新鮮な状態で食べることができるただ一つの食材だから。

問五　空欄［C］に入る語句として最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア　子どもを産み、育て、一人前のゴリラにする
イ　何を選び、どこで、どうやって食べるか
ウ　他のゴリラを追いやってでも何とか生きのびる
エ　どうすれば理想のパートナーを見つけることができるか

問六　――線部D「慎重だ」、E「たいへん慎ましやか」とありますが、ハオコがトマトを食べるとき、「慎重」であったり「慎ましやか」になっているのはなぜですか。五十字以内で答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

・食べ物
・つぶしたり汁をとばす

問七　ゴリラが緊張しているときの口の様子として正しいものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア　口をだらんと垂らす。
イ　口を真一文字に結ぶ。
ウ　口をすぼめる。
エ　口を左右に大きく広げる。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし設問の都合や読み易さを考えて、一部平仮名を漢字に表記した個所がある。

「上杉リナです。おせわになります。」

リナは、頭を下げた。

A「だれがあんたのせわなんかするって言ったね。」

と、おばあさんが言った。そういったときも、リナを見なかった。リナはおどろいた。

「だって、おとうさんが……。」

リナが言いかけると、そのことばを追いかけるように、

「なんて言ったんだい。」

と、ことばの終わりを、ぐうっとゆっくりおし上げていった。

おとうさんは、

「むかし、せわになった人がいるから、霧の谷へいってみろ。」

と言っただけだったのだ。リナが、どうしてかとたずねても、

「毎年、長野へ行くんだから、たまにはかわったところもいいだろう。」

としか言わなかった。

むかえにも来てくれず、やっと探しあてたと思ったら、こんなに冷たくされる。こんなあつかいを受けたのは、初めてだった。

長野のおばあちゃんなら、

「よくきた、よくきた。」

と、にこにこしてむかえてくれるのに。そう思うと、リナはくるりとふりむいて、このまま帰ろうと思った。心ぼそかった。泣くまいと思うのに、なみだがあふれそうだった。駅に一人でいたときよりも、心ぼそいと思った。

おばあさんは、そんなリナを見ても平気で、ポリポリとクッキーをかじりつづけている。

「それじゃ、帰ります。」
と、リナは言った。それだけ言うのがせいいっぱいだった。
　すると、
「だれが帰れって言ったね。」
と、おばあさんが言った。
「だって、いまあなたが……。」
「なんて言ったんだい。」
　まったくいじわるな声だった。
　リナの目から、なみだが流れはじめた。おばあさんは、リナをちらっと見た。泣いていることに気がつくと、
「リナは、よくわかっていないようだね。このピコット屋敷（やしき）は下宿（げしゅく）屋なんだよ。代々、霧（きり）の谷のね。」
と言い、お茶をズーと一口すすって、こうつづけた。
「それで、ここでは自分の食いぶちは――つまり、今の言葉で――。」
と、言葉を探し、
「そう、そう、生活費。その生活費は自分で働いてかせいでもらうんだよ。」
と言った。そして、
「だから、だれにもせわなんてかけない。ほら、なんていったかね。」
と、またしばらく言葉を探し、
①はたらかざる者、食うべからず。それなのさ。うん。」
と、自分の言ったことに自分でうなずいた。
「お金なら、わたし、持ってきてます。」
　リナは安心したように言ったが、おばあさんの一瞥（いちべつ）にらみで、また縮みあがった。

「それは自分のお金なんだね。」

おばあさんは、②念をおすようにリナにきいた。リナはうなずいた。

「自分でかせいだお金なんだろうね。」

リナは、きょとんとして、首をゆっくり左右にふった。そのお金は、おとうさんにもらった休み中のおこづかいだった。

「かせいだお金でなきゃだめだね。さっき、わたしが言ったろう。自分で働いてって。」

「でも、わたし、働くっていっても、何もできないんです。」

リナは、どうしていいかわからなかった。

リナは、自分が何もできないことをよく知っていた。字はへただし、そろばんも加減しかできない。学校と学習塾の往復だけで一日が終わってしまうから、おかあさんの手伝いなんてしたこともない。だから、料理も洗濯も、まともにできはしない。B カロリー計算は、家庭科のテストにでるのでおぼえたが、おいしく作るという③肝心なことは、からっきしだめなのだ。

そんなことを考えていたリナに、

「手があって、足があって、目も鼻も耳も、見たところ異常はなさそうじゃないか。」

と、おばあさんが言った。そしてまた、

「だれが、何もできないって言ったんだい。」

リナは、もうこのソファのしみのようなおばあさんから、逃げ出したくてしかたがなかった。おばあさんは、そんなリナに全然おかまいなしで、

「さあ、傘は傘立てに入れて、部屋は二階の右から二つめ。荷物をおいたら食堂へ来なさい。昼食ができているから。」

と、追いたてるように言った。

リナは決心がつきかねて、まだ立っていた。おばあさんは、リナがここにいるものと決めてかかっている。

「さっさとおしっ。」

おばあさんの厳しい声がとんだ。

リナはその声にびっくりして、小走りに部屋をとび出た。むかいの部屋から頭が三つのぞいていたが、リナが出たとたん、あわててバタンと戸が

閉まった。
「痛え。」
と、ものすごい悲鳴がして、
「鼻が、鼻が。」
「薬、薬をもってきて！」
と、さわぐ声がきこえた。
リナは、ここにいてみようかなと思った。あのおばあさんと二人きりというわけでもなさそうだ。それに、この町も、家も、なにかしらリナをひきつけるところがあった。おとうさんが、たまにはかわったところも——と言ったが、本当にかわっている。
リナは、おばあさんが言った部屋の前に立った。ピエロのドアノッカーがついている。
C 戸を開けてみて、ここにいてみようかなと思う気持ちは、ますます強くなった。ふわふわしたうすい布地のピンクのカーテン。同じ色のベッドカバー。小さな机と、椅子と、たんすには、どれにもピエロのにいっと笑った顔が、うき彫りになってついている。右手の戸を開けると、ふろ場とトイレだった。洗面所には、ピンクのタオルがならべてある。
リナは、この部屋がすっかり気にいった。リナは今まで自分の部屋をもったことがない。ずっと団地住まいなのだ。ここで暮らせるなら、あのおばあさんぐらい我慢しよう。リナは、やっと決心した。
本やノートは机に、着がえはたんすにしまった。窓から手のとどきそうな近さに、オペラピンクの雲のようなさるすべりが見える。
「よろしくね。」
リナはさるすべりに呼びかけた。不安だった。ひとりぼっちだと、ひしひしと感じた。
リナは、汗だらけの顔を洗って、乱れた髪を結いなおした。いつも、おかあさんにしてもらっているので、うまくいかない。リナは、一本に結った髪を二つに分けて持つと、ぎゅっとひっぱって、たるみをなおした。
緊張して下へおりていくと、
「リナ、こっちへ来ておくれ。」

と、階段わきのおばあさんの部屋から声がした。

「食堂へ連れて行ってあげよう。そうだ。さっき、わたしの名前を教えるのを忘れていたね。わたしはピピティ＝ピコット。」

そう言って、おばあさんはすっと立ち上がった。

立つと、リナと同じぐらいの背で、銀色の髪を編んで、頭のまわりに巻きつけている。そのせいか、頭がひどく大きく見える。黒い服は夏なのに手首までであり、すそはくるぶしまでもある。おばあさんはリナに近よってくると、リナをながめまわした。

「近眼だね。眼鏡をかけなさい。顔をしかめてものを見ると、しわがふえるよ。なんて髪なんだろうね。かわいい顔でもなし、髪ぐらいきちんとしてなきゃ、見るとこないね。それに太りすぎだ。あんたの部屋のベッド、壊れなきゃいいが。」

言うだけ言うと、さっさと行ってしまった。

リナには悪魔の言葉のように聞こえた。初めて会った人に、あけすけに欠点ばかり数えあげられ、リナの自尊心は、めちゃくちゃに傷つけられた。

（きらい、大きらいよ。）

リナはなみだのたまった目で、おばあさんの背中を見つめていた。

「なにぐずぐずしてるんだい。」

食堂の入り口で、おばあさんがふり返りもせずに言った。

リナはうつむいたまま、ここと言われたところへ座った。ずっと頭を上げないでいた。泣いた顔を見られたくなかった。

「紹介するよ。今日からピエロの部屋へ入るリナだよ。」

リナは、うつむけていた顔をもっと下げ、さっとなみだをぬぐった。

「リナの左どなりがイッちゃん。発明家だよ。」

リナは、となりの人を見た。ごましおの髪が見えた。その人はリナの方を向いて、

「よろしく。」

とほほえんだ。

イッちゃんを見たリナは、思わずプッと笑いだしてしまった。なんて大きくて、まるくて、真っ赤な鼻だろう。この人だ。この人が戸に鼻をはさ

んだのだ。リナが笑いころげるのを見て、ほかの人たちも一緒に笑いだしてしまった。イッちゃんも、それにつりこまれて笑いだした。

「いや、さっき君のことを見ようと思ったら、キヌさんが急に戸を閉めるもんだから。」

と、イッちゃんは頭をかいた。年とった人のように見えるのに、声も話し方も若々しい。

「イッちゃんのむかいがキヌさん。今は、洗濯や掃除をしてもらっているんだよ。」

まっ白いかっぽう着を着た、大きな黒い瞳の女の人が、にっこりと笑った。リナは、静岡にいるおかあさんを思い出した。

「そして、キヌさんのとなりがジョン。うちの名コック。」

「はやくしちまってくだせえ。せっかくのスープが……。」

ビヤ樽のように太った、赤ら顔の人が、リナにちょっとうなずくと、不満そうに言ったが、おばあさんの一にらみで黙ってしまった。

「最後がジェントルマン。」

おばあさんは、自分の左どなりを見た。金色の毛で、緑色の目をした、大きな猫と思われる動物が、椅子に座っていた。

ジェントルマンは、リナをじっと見つめた。リナは、その深い沼のような目に吸いこまれるような気がした。

リナは食事中、おばあさんとジェントルマンの目をなるべくさけるようにした。それでも料理はおいしかったし、イッちゃんは親切にソースやパンをとってくれた。ジョンは、リナの旺盛な食欲に、たいへん満足したようだった。

昼食のあと、リナは部屋に戻って、さるすべりを見ていた。F リナはあらためて、ここは下宿屋だと感じた。食事の時だけみんな集まって食べるが、終わるとそれぞれの部屋に閉じこもってしまった。リナの家や、長野のおばあちゃんの家のように、みんなで集まっておしゃべりをするようなことは、全然ないのかもしれない。リナの、ここにいてみようかな、と思う気持ちも、だんだんとぐらついてきた。

「おかあさん、今ごろ何してるのかしら。」

そう思ったとたん、急におかあさんが恋しくなって、なみだが出てきた。

（柏葉幸子『霧のむこうのふしぎな町』）

問一　〰〰線部①～③の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれ後のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

①「はたらかざる者、食うべからず」

ア　働いていない者は、食べる気もおきないはずだ　　イ　働かない者は、食べてはいけない

ウ　働くしかない者は、食べない方がいい　　エ　働くことができない者は、食べることもできない

②「念をおす」

ア　うたがわしく思う　　イ　心をこめる

ウ　間ちがいないようにと祈る　　エ　間ちがいないか確かめる

③「肝心なこと」

ア　最も大事なこと　　イ　どうでもいいこと

ウ　全く興味のないこと　　エ　勉強に関係ないこと

問二　――線部A「だれがあんたのせわなんかするって言ったね」とありますが、おばあさんはどういう意味でリナにそう言ったのですか。リナの世話はどうするのか、おばあさんの屋敷がどういったところかについてふれながら説明しなさい。

問三　――線部Ｂ「カロリー計算は、家庭科のテストにでるのでおぼえた」とありますが、次の質問に答えなさい。バランスの良い献立作りをしようと考えて主菜をひき肉とジャガイモを使ったコロッケにした場合、主食と副菜はどのようなもの適切ですか。全体的な栄養のかたよりがない最も適切なものを後の語群から選んで記号で答えなさい。

主食：〔　①　〕　主菜：コロッケ　副菜：〔　②　〕

ア　ミートソースのパスタ　イ　てんぷらうどん　ウ　白いご飯　エ　豚まん
オ　小松菜のごま和え　カ　野菜のてんぷら　キ　揚げ春巻き　ク　フライドポテト

問四　――線部Ｃ「戸を開けてみて、ここにいてみようかなと思う気持ちは、ますます強くなった」とありますが、その理由として**適切でないもの**を次のア～オの中から二つ選んで記号で答えなさい。

ア　カーテンやベッドカバー、洗面所のタオルが全てピンク色で統一されているから。
イ　おばあさん以外の人たちは話すといい人だということがわかったから。
ウ　机、いす、たんすには浮き彫りにされたピエロの笑った顔がついているから。
エ　この町や家が、ずいぶんと変わっており、興味がわいてきたから。
オ　自分の部屋を今まで持ったことがなかったリナがこの部屋を気に入ったから。

問五　――線部Ｄ「欠点ばかり」とありますが、おばあさんはリナの欠点とは具体的に何だと言っているのでしょうか。次のア～クの中から三つ選んで記号で答えなさい。

ア　ふとりすぎている
イ　考えすぎて思ったことを口にしない
ウ　親にあまえている
エ　目が悪いので物を見るときに顔をしかめる
オ　かみがきちんと整っていない
カ　料理がへたである
キ　字がへたで、そろばんもうまくない
ク　すぐに文句を言ってしまう

問六　――線部Ｅ「うつむけていた顔」とありますが、リナはなぜ顔をうつむけていたのですか。その理由を本文中から十四字で書きぬいて答えなさい。

問七　――線部F「リナはあらためて、ここは下宿屋だと感じた。」とありますが、リナがそう感じた理由を本文中の語句を使って答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

・食事が終わる
・みんなで集まっておしゃべり

問八　本文中の**まい**と同じ意味・用法の「まい」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。特に「なくまい」や「泣くまい」の表現を使った解答は不正解とします。